

【問題提起】第 11 分科会

## 第 11 分科会 「放射線医療従事者の賃金労働条件の実態、 タスクシフトや業務分担を考える」

- ◇運営委員 岩崎泰剛（済生会新潟病院労働組合）  
          廣中 啓人（済生会兵庫県病院労働組合）  
          松村 久（奈良健生会労働組合）
- ◇助言者 樋野 伸一（松江医療生協労働組合）

### ◇分科会趣旨／問題提起

近年、放射線業務に携わる医療従事者は、最新の医療機器の導入により、高度な技術を有する業務が多くなっており、専門性の高い職種です。近頃、放射線技師主演のドラマ等、メディアでも取り上げられ、以前より医師、看護師以外の医療従事者の認知度が上がっています。

医療の現場では、専門的知識を必要とする業務が多く、技師会等、多くの団体に認定制度を確立し、高度な医療を提供する専門性の高い技師を育成しています。

放射線技師でもタスクシフトによる業務拡大が行われています。放射線技師法の改正により、放射線技師会主催の告示研修を終了することで、新たな業務を行うことが可能になりました。特に CT、MRI における造影剤の針刺、抜針については、多くの意見を基に議論を深め、今後活用していく話し合いを望んでいます。また放射線業務には多くの医療従事者が関わっており、IVR 時における職種間の連携などについても話し合います。

また新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、多くの職場で手当の廃止や職場環境の変化がありました。感染症に対する院内の制度や、労働環境についても議論を深めたいと思います。

より良い職場環境を得るには、組合体制や労使関係も重要です。病院と組合が、お互い切磋琢磨し改善していくことが望まれます。そのためには、労働組合も力をつける必要性を感じます。病院と話し合い、働きやすい職場に改善していくことが、組合の最大の魅力です。多くの施設の労働実態を知り、少しでもよりよい職場環境につながる分科会になればと思います。

放射線に携わる医療従事者（看護師、臨床検査技師、臨床工学技士等）の賃金労働条件に関する労働実態、問題点について多くのレポートをお待ちしております。多くの参加者による討論ができれば幸いです。放射線技師だけではなく、放射線業務に従事する医療技術職の参加も大歓迎です。よろしくお願い致します。